

傳次郎康珍
の祖より

松平

淡路守源忠直（忠直）ハ（按）松平系譜集巻六
に忠直といはれしなり 江戸

允忠頼（允忠）う二男にして人膳亮忠重（忠重）の弟

あり（寛永）譜 一七と稱し（松平）又監（譜系）

物としり（家）傳長親君の二男内膳正法定

之河國櫻井（櫻井）に居せしより櫻井乃

松平と稱し（寛永）譜 忠頼ハ（家傳）

東照宮には（慶長六年二月淡松城攻

賜い加恩ありて五万石と領い同十四年
九月廿九日水野市正忠胤り許にきく久米
左平次ら為にうる時に二十八歳あり
此時城地と没収せらるる兄忠重慶長十
五年のまゝにきく新小八千石と賜い元和
八年十月上総國佐貫城一万五千石に
領い後志ハく加恩ありて遠江國掛
川城四万石と領い家譜忠直十一歳に時慶長

十七年七月

公徳院殿と并寛永譜其後五百石に采

地と賜いりて家傳○按とらに家傳より八千石と記す
りる事歎る家傳元和六

年閏十二月從五位下小叙し監物に稱

し寛永後淡路守小改む和年系譜寛永十六

年七月法書院番の組頭に御日記同

十八年四月西城に寛永譜りて七拾御日記りて小遣御

れと此法奉の者として其期と過らて遅

系せしうかこもくく勅氣と蒙りぬ忠直

と其列るりりまはともに通塞せしる御日記

同十九年閏九月御小姓組の改しる御日記

同年十二月安房國れうちになく千五

百石とかくらまは二千石と知はし御日記

家侍此頃加増ありまこと何れ賜ひし御日記

死御日記 按らるに参上家侍にハ 四十五歳より御日記

にハ七十二歳とあるし一は廣長十七年 法名と道徹と

いふ家侍 其子監物忠氏御日記 女ハ七郎

と稱し家侍 寛永十七年二月

入猷院殿と稱し御日記 寛永譜御日記

正保二年遺跡と継て寄公に席丹列

る御日記 成にワのら二千五百石と知はし御日記

石と加へしれく二千五百石と知はし御日記

一年忠氏仍いよかくる事ありて改易せしれり御日記

忠氏の子ニ七郎忠明に千石改賜し御日記

西城侍従以松平健敏助
忠義を祀るなり

宮内忠治ちかひ、淡路守忠直より二男ありて

めはたつ忠成ちかひと称し寛永譜考
松平傳父の遺跡に

うら五百石に分ち賜へり家
傳正保四年

九月

大猷院殿と稱し其後

嚴有院殿に附せり此侍小姓とあり

御目
記慶安二年九月より西城に侍小姓組

とあり

御目記
松平系傳
松平系滿集卷之五
今川系松平氏門忠光を祀るなり